

Ⅲ. 同時代のウィーンのオペラ

1. ハプスブルク家と音楽

オーストリア系ハプスブルク家のもとの音楽

オーストリア系ハプスブルク家は、フェルディナント 1 世（神聖ローマ皇帝、在位 1556-64）に始まる。フェルディナントは帝室礼拝堂聖歌隊の再建に力を注ぎ、・・・26 年からは個人礼拝堂の聖歌隊も抱えていた。・・・その後続く大公たちはイタリア・オペラの発展に力を注ぎ、インスブルックでは特に高い水準のオペラの上演が行われた。・・・レーオポルト 1 世（在位 1658-1705）の時代には、ウィーンの音楽界におけるイタリア人音楽家の影響力が急速に増大した。・・・レーオポルトの息子であるヨーゼフ 1 世（在位 1705-11）は、政治家として傑出していたばかりでなく、音楽の奨励にも尽力している。イタリア人音楽家の優位は彼の治世の間も続き、1708 年にはウィーンに歌劇場が新設され、・・・カール 6 世（在位 1711-40）はすぐれた鍵盤楽器奏者であり、作曲家でもあった・・・29 年にメタスタジオを宮廷詩人に任命している。カールの没後は、娘マリア・テレージア（在位 1740-80）が引き継いだ。マリア・テレージアの劇音楽に対する情熱は、ウィーンの演劇界の再編成を促すきっかけとなった。52 年にウィーン市と宮廷がブルク劇場およびケルントナートーア劇場の管理を引き継いだ。・・・ヨーゼフ 2 世（在位 1765-90）も、彼以前のハプスブルク家の歴代君主同様、完璧な訓練を受けた音楽家であった。すぐれたバス歌手であり、ヴィオラ、チェロ、鍵盤楽器も演奏し、しばしば伴奏者として宮廷での演奏に加わった。・・・91 年、モーツァルトはレーオポルト 2 世（在位 1790-92）がプラハで戴冠された際の祝典のために、《皇帝ティトゥスの仁慈》を作曲した。

[ニューグローヴ世界音楽大事典「ハプスブルク」]

モーツァルトの時代のハプスブルク家の皇帝たち

マリア・テレージア（1717-1780） === フランツ 1 世（1708-1765）



ヨーゼフ 2 世（1741-1790）



レーオポルト 2 世（1747-1792）



マリー・アントワネット
（1755-1793）



2. ウィーンで上演されたオペラ

ブルク劇場でのオペラ上演 1781 年～1791 年 上演回数ランキング



第1位 294回 パイジエッロ Paisiello, Giovanni (1740-1816)

イタリアの作曲家。18世紀後半に最も成功を収め、最大の影響力を持ったオペラ作曲家の一人。 [ニューグローヴ世界音楽大事典]



第2位 185回 サリエーリ Salieri, Antonio (1750-1825)

ウィーンで活躍したイタリアの作曲家。グルックの庇護を受け、1774年宮廷作曲家ならびにイタリア・オペラの指揮者、88年宮廷楽長に就任。

[音楽中辞典]



第3位 141回 マルティン・イ・ソレール

Martin y Soler (1754-1806)

スペインの作曲家。1785年以降、ウィーンに居を定め、・・・まもなくヨーゼフ2世に気に入られる。86年には台本作家ダ・ポンテと共同制作を行うようになり、モーツァルトを含む他の作曲家をはるかにしのぐほどの成功を収めた。

[ニューグローヴ世界音楽大事典]



第4位 124回 チマローザ Cimarosa, Domenico (1749-1801)

イタリアの作曲家。18世紀後半のオペラ、特に喜歌劇の代表的な作曲家である。

[ニューグローヴ世界音楽大事典]



第5位 112回 グリエルミ

Guglielmi, Pietro Alessandro (1728-1804)

イタリアの作曲家。おもにナポリを中心に100曲を超えるオペラを書く。

[音楽中辞典]



第6位 108回 サルティ Sarti, Giuseppe (1729-1802)

イタリアの作曲家。79年ミラノ大聖堂の楽長に就任してからは、彼のオペラはヨーロッパ中で人気を得た。 [音楽中辞典]



第7位 105回 モーツァルト

Mozart, Wolfgang Amadeus (1756-1791)

宮廷ブルク劇場における上演作品と回数 1783 年～1791 年

(L. ゾンライトナーによる。ただしイタリア語作品のみ)

年代	公演 総数	公演回数の最も多い作品	モーツァルトの作品
1783	103	サルティ 《争う二人の間で》 25 回	0
1784	134	パイジェッロ 《ヴェネツィアのテオドーロ王》 10 回	0
1785	125	パイジェッロ 《才気ある田舎女》 18 回	0
1786	129	サリエーリ 《トロフォニオの洞窟》 13 回	《フィガロ》 9 回
1787	123	グリエルミ 《恋の策略》 18 回	0
1788	129	サリエーリ 《アクスル》 29 回	《ドン・ジョヴァンニ》 15 回
1789	150	マルティン 《ディアーナの木》、《椿事》 各 19 回	《フィガロ》 11 回
1790	132	マルティン 《ディアーナの木》 21 回	《フィガロ》 15 回 《コシ》 10 回 計 25 回
1791	156	グリエルミ 《美しい漁師の娘》 27 回	《フィガロの結婚》 3 回

[磯山雅『モーツァルト 二つの顔』]

ブルク劇場 Burgtheater

正式名称は「王宮に隣接する国立劇場」。これが「宮(ブルク)劇場」と略称されている。・・・1776年の「宮廷劇場令」により、18 世紀末までにウィーンオペラ制作の中心地となった。

[オックスフォード オペラ大事典]

1830 年頃の内部の様子



初演時のブルク劇場は、1888 年に
取り壊された



現在のブルク劇場

3. サリエーリとダ・ポンテ

1784年12月6日にはブルク劇場で全三幕の喜歌劇《一日成金》が初演された。ヨーゼフ2世に命じられて前年春にサリエーリとダ・ポンテが着手した作品である。このオペラはダ・ポンテの台本作者デビュー作となるが、題材が舞台向きでないことから悪戦苦闘を余儀なくされた。・・・サリエーリは《一日成金》の失敗でダ・ポンテと距離を置くようになり、《トロフォーニオの洞窟》と《はじめに音楽、次に言葉》でカスティと組んだ。・・・

1786年、ウィーンではイタリア・オペラが13作上演されている。・・・6作はダ・ポンテの台本である。新作を連発し、失敗作も出したダ・ポンテをヨーゼフ2世は叱り、「今後は、モーツァルト、マルティン・イ・ソレル、サリエーリのためだけに」台本を執筆するよう命じた。

[水谷彰良『サリエーリ』]

サリエーリとダ・ポンテの共作オペラ

初演年	曲名	ブルク劇場における 1791 年までの上演回数
1784 年	一日成金	7 回
1788 年	オルムスの王アクスール	51 回
1788 年	護符	21 回
1789 年	忠実な羊飼	6 回
1789 年	花文字	17 回

[水谷彰良『サリエーリ』][モーツァルト大事典]

カスティ Casti, Giovanni Battista (1724-1803)

イタリアの劇作家、台本作家。広く旅した後ロシアを訪れ、同地で『だまされた花婿』(1779)を、さらにウィーンで『ヴェネツィアのテオドリウス王』(1784)をいずれもパイジェッロのために書いた。その後サリエリのためにも台本を書き、その中には作曲家の地位の低さを辛辣に風刺した『音楽が第一、言葉は次に [はじめに音楽、次に言葉]』(1786)がある。この作品にはダ・ポンテへの嫌味がいくぶんこめられている。

[オックスフォード オペラ大事典]

